



## 次は世界の高みへ

### ヒルノダムール号天皇賞(春)優勝

5月1日、京都競馬場で開催された「第143回 天皇賞(春)」(GI 芝3200m)を(有)橋本牧場生産のヒルノダムール号(牡4歳 父マンハッタンカフエ 母シエアエレガンス)が、同世代の日本ダービー馬エイシンフラッシュの猛追を2分の1馬身凌ぎ、7番人気という不当な評価を覆し、見事優勝を飾りました。

レースは、先頭の出入りが激しい展開の忙しいレースとなりました。全馬ほぼ一線の綺麗なスタートを切った中、やや気合いを付けながら、ゲシユタルトが先頭に立つとそのまま1周目の第3、第4コーナーを通過しました。

スタンド前の直線にさしかかると、ペースの緩みを感じたコスモヘレンスガ、そのゲシユタルトを交わして先頭を奪ったのも束の間、第1コーナーでは、騎手との折り合いが思うようにつかなかった1番人気のトゥザグロリーが先頭になりました。

1番人気の馬が先頭に立ったことにより、勝負所となる最終コーナーまではレースが落ち着くことが予想されましたが、ロングスパートを身上とするナムラクレセントが向正面半ばから一気に先頭に立ち、最後の直線半ばまで先頭を守り続けました。

そのように入りの激しいレースの中でも馬群の中でじっと我慢し、自身の走りに徹した2頭が最後は素晴らしい瞬発力で抜け出し、冒頭でも記した通り、エイシンフラッシュの追撃を押さえ込み、2分の1馬身差でヒルノダムールが優勝を果たしました。

史上最強と呼ばれる現4歳世代の中にあって、早くからその能力の高さを評価され、昨年の皐月賞2着をはじめ、常にトップクラスの1頭として善戦を続けてきたヒルノダムールも大きなタイトルを獲得し、充実の時を迎えています。

今後は、世界最高峰のレースの一つであるフランス・ロンシャン競馬場で、10月2日に開催される「凱旋門賞」(GI 芝2400m)に挑戦することが正式決定しており、秋には更なる高みを目指します。